

学ぶ意欲の大切さ

新PTA会長 石口嘉美

PTA会員の皆さまには日頃よりPTA活動にご協力とご支援をいただき、誠に感謝申し上げます。本年度PTA会長を仰せつかりました石口と申します。精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。私は中学2年生と小学5年生の子を持つ二児の父です。上の子どもが小学生の頃は、お恥ずかしい話ですがPTA活動は妻に任せきりという状態でした。そんな私ですが、昨年息子の中学への入学を機に校長先生とお話しする機会がございました。

向本校長は、私が中学時代に所属する部活の顧問をされていたということもあり、当時の話など懐かしく雑談をさせていただきました。その後、社会に出て困ったことや気付かされたことを話した後に、向本校長から「3本の竹事業」についてのお話を伺いました。「なるほど」と思いました。

<3本の竹事業とは>

簡単に申しますと「家庭」「学校」「地域」で子どもたちの向上を目指そうという取り組みです。子どもの学力を「1本の樹」に見立て、その成長を3本の竹に見立てた「家庭」「学校」「地域」の3者で支えていこうというものです。

「樹」にも色々な種類がありますが、勝手に育つ「樹」はありません。勝手に育っているように見えるだけで「樹」が成長するためには「太陽の光」と「適度な水」と「肥えた土」の役割を果たせたならば、樹に見立てた子どもの学力は必ず向上するはずで。そして、子どもたちが中学卒業という義務教育終了を迎える時に、進学、就職とどちらを選択しても「大きな幹を持つ大樹」に育っていただきたいとの願いが込められています。

この「3本の竹事業」のお話を、向本校長から伺い、私が実感したのは「1本の樹に見立てた子どもの学力を向上させるために、我々保護者にいったい何ができるのか、考える必要がある」ということでした。

この話を伺う前は、私もPTA活動をはじめ、子育てや教育は妻任せ、学校任せで良いと考えていましたが、自分の小学生や中学生の頃を思い返し、記憶をたどると、放課後に先生方や諸先輩方に勉強をおしえてもらったこと、上級生や下級生と年齢を超えて共に遊んだ記憶などがよみがえってきました。

また、登下校時には「おはよう」「お帰り」と近所の方とのコミュニケーションがあり、時には悪さをし、叱られたりすることもありました。どの地区にもそのような怖いおじさんが1人はいたように思います。昔は、地域全体で子どもたちを指導するという習慣があったように思います。そのような感じで「家庭」「学校」「地域」が連携し「3本の竹事業」を進めていく必要があると実感しております。私も全力で協力する所存です。

<家庭での学習の大切さ>

某大学の教授のお話ですが、勉強が好きと答える子どもの多くは、小さい頃から家庭学習で勉強する習慣がある家庭が多いそうです。あくまでも統計学ですが、実際の調査が行われた結果です。小さい頃から勉強をするという習慣をつけることで、勉強しないという事に違和感を覚えるようになるそうです。子どもは人であり、樹のような植物とは違います。ただ単に物や時間を与えるだけでは思うように成長してくれません。どのような思いを込め、接していくかが重要だそうです。私たち保護者が子どもたちと目線を合わせ、共に歩む姿勢が必要なのかも知れません。その為には、我々保護者は、子育てや仕事で忙しい中においても、子どもたちの将来の為にきっちりとした躰をしていく必要があるのではないのでしょうか。そのような日頃の積み重ねが人格形成に大きな影響を与えられているそうです。

私は、この3本の竹事業を大正中学校という小さな枠組みで考えるのではなく、小学校、幼稚園、保育所も含めた校区全体で取り組むべき事業と思います。

<やる気の大切さ>

知性や教養は、日頃の積み重ねにより身に付いていくものです。身に付いたことは決して邪魔になることはないでしょう。その努力は必ず、自分自身の心や器を大きくしてくれるはずで。知識が豊富ということは、何事にも冷静に対応できる「分析力」が身に付き、結果として、良い方向に導く「思考力」や「判断力」へとつながります。

また人は一人では成長できません。ある程度の競争心を持ち、切磋琢磨しないと思うようには成長しません。「知識」や「技能」は教えてもらえれば身に付きますが目に見える出来栄であって、本当に必要なものは「思考力」「判断力」「表現力」つまり「自ら考え解決に導く力」の基礎を身に付けることが必要ではないでしょうか。このような力を身に付けることができれば、子どもたちが人生を歩んで行く上で、必ず良い方向に進んで行けると思います。

そして、それを得るために必要なのが「意欲」や「関心」といった目に見えない力です。つまり「やる気」です。これが自分の中に芽生えないと話になりません。この目に見えない力を身に付けることが最大の目的かも知れません。

今年度からPTA会長として、そのような事をふまえて、子育てを学校だけに任せるのではなく、今をどのように過ごすかということを、我々保護者も各家庭で子どもと共に考えることを呼びかけていきたいと思っております。

3本の竹事業へのご参画のほど、よろしくお願い申し上げます。

(「大正中だより “3本の竹” 第2号より)